

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4079200335		
法人名	有限会社 てらだ苑		
事業所名	グループホーム さん愛		
所在地	〒822-1406 福岡県田川郡香春町香春1660番地1 Tel 0947-45-1303		
自己評価作成日	令和03年12月08日	評価結果確定日	令和04年01月10日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

運営理念を「より愛、ふれ愛、たすけ愛」として、日頃よりご家族様と入居者様とがともに過ごせる機会を多く持っていただけるよう、さん愛新聞や行事案内を毎月お送りし、ホームページなどにおいてもご家族様等が当苑を知ることができるよう職員全体が日々精進し、心地よく安らぎを感じていただけるような雰囲気・環境作りに努めております。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/40/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 北九州シーダブル協会		
所在地	福岡県北九州市小倉北区真鶴2丁目5番27号 Tel 093-582-0294		
訪問調査日	令和03年12月28日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「より愛、ふれ愛、たすけ愛」の理念の下、2005年3月に開設した定員18名のグループホームである。住宅型有料老人ホーム、デイサービス、訪問看護ステーションを併設し、各事業所が連携して利用者の活気ある日々の暮らしや安心に繋げている。ホーム内に看護師を1名配置し、提携医による月2回の往診、敷地内の訪問看護ステーションとの連携で安心の医療体制が整い、看取りにも取り組んでいる。当ホームに13年、15年と長く勤める2名の管理者を中心に、幅広い年齢層の職員が、「皆が優しいので働きやすい」と互いを思いやり助け合っている。コロナ禍で、地域との交流や外出が制限される中、敷地内3ヶ所の畑で野菜を育て、旬の食材を使って職員が交代で作る美味しい料理を完食し、外部から講師を招いて行う週2回の音楽レクリエーションや足湯でリラックスタイム等、楽しみごとを多く提供し、笑顔溢れる大きな家族のような、グループホーム「さん愛」である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25.26.27)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20.40)	<input type="radio"/>	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66	グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2.22)	<input type="radio"/>	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/>	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
61	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38.39)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、日常的に戸外へ出かけている (参考項目:51)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32.33)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:30)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	家庭的な環境の下で入居者が安心と尊厳のある生活を営むことができ、生き生きと過ごせる事を理念とし、全職員が認識し、実践している。	「より愛、ふれ愛、たすけ愛」の気持ちで、利用者が家庭的な環境のもとで、安心と尊厳のある生活を可能な限り自立して営む事ができ、地域との交流を通して、自分らしく生き生きと過ごせるよう支援することを理念とし、職員会議時に唱和して理念の共有に努めている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事等に参加していたが、コロナウイルスの影響で、全て中止されており、行えていない。行事が再開され次第参加し、地域の方々との意見交流に努めていく。	地域の行事や活動への参加や小学校との交流、中学校の職場体験、ボランティアの受け入れ等、積極的に交流していたが、新型コロナウイルス感染症対策の為、現在は自粛している。週2回行われる講師を招いての音楽レクリエーションが利用者の大きな楽しみである。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	高齢者のいる家族からの相談事等は、いつでも対応できるように心掛けている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、二か月に一回行っていたが、コロナウイルスの影響で、今年も行えていない。コロナウイルスが、落ち着き次第、運営推進会議を行い、サービスの向上に努めていく。	運営推進会議を2ヶ月毎に開催し、ホームの運営や取り組み、課題等を報告していたが、コロナ禍の中で現在は書面で会議を行い、議事録と「さん愛新聞」を各委員に送付している。	参加委員が固定化しているため、コロナ収束後には委員の増員を図り、家族、元家族、地域、行政と協力して、ホーム運営や地域の課題解決に向けて取り組める開かれた会議運営を期待したい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議を活用していたが、現在コロナウイルスの影響で、運営推進会議が行えていないため、コロナウイルスが落ち着き次第、運営推進会議を再開し、活用していく。	管理者は、ホームの空き状況や事故等の報告を行政窓口で電話やメールで行い、アドバイスや情報提供を受ける等、協力関係を築いている。疑問点や困難事例があれば、行政や地域包括支援センターに相談し、情報交換しながら連携を図っている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	拘束についての研修を、定期的に行っている。	施設長、所長、2名の管理者を中心に身体拘束廃止委員会として話し合いを行っている。その内容を基に全職員を対象に身体拘束についての研修を実施し、具体的な禁止行為を正しく理解し、他所の事業所の事例を挙げて確認を行い、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止についても、研修や勉強会を実施し、理解を深め、防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	コロナウイルスの影響で、関係者との話し合いはできていないが、施設で研修を行い、全職員が、理解し活用できるように努めている。	権利擁護に関する制度の資料やパンフレットを用意し、契約時に利用者や家族に説明している。現在、制度を活用している方はいないが、利用者や家族から相談があれば、内容や申請手続きについて説明し、関係機関を紹介出来る体制を整え、利用者の権利や財産が不利益を被らないように支援している。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、しっかりと説明を行い、改定時には、家族会を行っていたが、コロナウイルスの影響で、現在は家族会が行えていないため、手紙や電話での説明を行っている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設置し、家族からの意見を受け止め、職員会議等にて、議論を行っている。	コロナ感染対策以前は、母の日と敬老会を兼ねて年2回家族会を開催していたが、現在はコロナ禍の中自粛している。アクリル板越し15分の面会が可能となり、月1回の利用料の支払い時等の機会にも家族とのコミュニケーションに努め、意見や要望を聴き取り、出来るだけ運営に反映させている。	
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者・管理者は、職員からの意見等を聞き入れる環境づくりに努めており、意見を反映させている。	職員会議を月1回17時半から開催し、ほとんどの職員が参加して活発な意見交換が行われている。職員の意見や要望、気になる事等について話し合い、利用者一人ひとりのカンファレンスを行い、業務改善や利用者への介護サービスに反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、個々の努力を十分に認めており、向上心を持って働けるよう、職場環境づくりに努めている。		
13	9	○人権尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	性別・年齢等は、一切気にすることなく採用している。また、職員の性別・年齢等、その人の能力に対し、差別することなく対応している。	管理者は、職員の特技や能力を把握し、適材適所に役割分担することで、職員が生き生きと楽しく働くことのできる職場環境作りに取り組んでいる。産休育休後も復帰できる体制を整え、互いが助け合う、気持ちの優しい職員が多いことから、職員は定着している。職員の募集は、年齢や性別、資格等の制限はしていない。	
14	10	○人権教育・啓発活動 法人代表及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	人権教育についての研修等に参加し、理解に努めている。	利用者の人権を守る介護の在り方について職員間で話し合い、利用者の個性や生活習慣に配慮して、言葉遣いや対応に注意した介護サービスの提供に取り組んでいる。また、理念の中に、「安心と尊厳のある生活」と明記し、職員は、常に理念を意識したケアに取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	現在は、コロナウイルスの影響で行えていないが、月に一度外部からの講師を招いて、全職員参加の元、研修を行っていた。コロナウイルスが落ち着き次第、研修を再開する予定。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他の施設との職員交換研修を行い、同事業所との交流を深めていたが、コロナウイルスの影響により、現在は行えていない。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前には、面談や見学等を行っており、不安を十分に解消していただいてから入居していただくように努めている。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	必ず入居前には面談を行い、入居後には、意見箱等を使い、意見を言いやすい環境づくりに努めている。また、不安なことがあった場合には、いつでも相談できるよう、相談しやすい環境づくりにも努めている。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族と面談を行った上で、不安や悩み等を第一に考え、プランを作成し、対応している。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	掃除や洗濯ものをたたむ等、本人ができることは職員と一緒にいき、一緒に生活する時間を少しでも多く設ける様に支援している。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	何かあればすぐに家族と連絡を取り、いつでも会いに来ていただきやすい環境づくりに努め、一緒に支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人の今までの生活歴を把握し、現在はコロナウイルスの影響で行えていないが、馴染みの場所へ外出したり、馴染みの方と面会する等、交流も図れるよう支援している。	コロナ禍以前は、家族や親戚、友人、知人の面会を歓迎し、ゆっくり話ができる環境を整え、馴染みの方々との交流を楽しむことができていたが、現在は新型コロナウイルス感染症対策の為、家族のみ15分の面会をお願いしている。友人からの電話の取り次ぎを行い、会話を通して懐かしい時間を過ごせるよう支援している。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクリエーションや行事等を用いて、一人一人が孤立しないよう支援している。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後も家族と定期的に連絡を取り、いつでも相談しやすい関係構築に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人との日常会話の中で、本人の思いや意向を聴き取り、また意思表示のできない方に対しては、家族との話し合いを通じて、本人本位の支援ができるように努めている。	職員は日々の暮らしの中で、利用者の思いや意向の把握に努め、職員間で共有し介護サービスに反映させている。意思を伝えることが困難な場合には、職員が利用者に寄り添い、表情や仕草から思いを汲み取る努力をしている。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所初期に本人や家族からこれまでの生活環境や馴染みの人、場所等を聞き、把握するように努めている。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人一人の一日の過ごし方や、心身の状態等は、詳しく記録している。		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人・家族・関係者等の意見を反映し、職員間でモニタリングを行い、無理のない計画作成に努めている。	職員は、利用者や家族の意見や要望を聴き取り、利用者一人ひとりに合わせた介護計画を3ヶ月毎に作成している。また、利用者の状態に変化があれば、家族や主治医と話し合い、その都度見直しを行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	申し送りノートの活用や、職員間でグループラインを作り、情報共有を行ってる。また月に一度の定例会議にて、意見交換や計画の見直しを行っている。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	一人一人に合った支援が行えるよう、その都度全職員で話し合い、柔軟な支援やサービスが行えるよう努めている。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の方々との関わりを大切に、現在はコロナウィルスの影響で行えていないが、地域の活動への参加を行っている。		
32	14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	二週間に一度往診を行っており、主治医と情報共有をしっかりと行い、適切な医療を受けられるよう努めている。また他科受診についても、家族と協力し適切な医療を受けられるよう努めている。	入居時に利用者や家族と話し合い、主治医を決めている。ホーム提携医による月2回の定期往診と同法人内訪問看護ステーション、ホーム看護師、介護職員が連携し、24時間安心の医療体制が整っている。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	状態変化等があった場合には、すぐに連絡をとれる体制を構築している。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時には、医療機関との情報共有をしっかりと行い、早期退院ができるよう、こまめに医療機関との連絡を取り合っている。		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期に向け、本人や家族と定期的に話し合い、また主治医を含めた話し合いも、出来る様に場を設けている。	重度化や終末期の方針について、契約時に利用者や家族に説明し、承諾を得ている。利用者の重度化が進むと、家族や主治医も交えて話し合い、訪問看護ステーションとも連携しながら、希望があれば看取りにも取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救命救急講習・避難訓練等を定期的に行い、月に一度の定例会議でも、急変時の対応等を話し合い、全職員が対応できるように取り組んでいる。		
37	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に二回昼夜を想定した避難訓練を実施し、消火手順等を指導して頂いていたが、コロナウイルス流行以降は、研修のみ行っている。	コロナ感染対策以前は、消防署の指導を受けて年2回昼夜を想定した訓練を実施していたが、コロナ禍の為、消防署を呼んでの避難訓練は行っていない。	コロナ禍で、消防署立ち合いの避難訓練は難しいが、利用者を安全に避難誘導する方法を身につける為に、職員のみで行う避難訓練の実施が望まれる。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人に合った話し方や対応ができるよう、研修を行っている。	職員は、利用者一人ひとりの人格を尊重し、利用者のプライドや羞恥心に配慮したケアに取り組み、利用者が穏やかに過ごせる環境を整えている。また、個人情報の取り扱いや職員の守秘義務については、管理者が常に職員に説明し周知を図っている。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常会話の中で、本人の思いや希望を探り、自己決定できるように努めている。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日の一人一人のペースにて過ごして頂けるよう支援している。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的に美容師に訪問していただき、身だしなみを整えている。また服装は、本人と職員で一緒に選び、支援している。		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	旬の食材を取り入れ季節感を味わって頂いている。また誕生日には、お祝い善やケーキ等を提供している。食事の準備等は、その日の状態に応じて一緒に行っている。	敷地内の畑で取れた新鮮な野菜を使って職員が交代で作る美味しい料理を提供し、一緒に食べる家庭的な食事の時間である。誕生日にはケーキを作り、天気の良い日にはお弁当を作って外で食べる等、いつもと違う雰囲気での食事も楽しんでいる。芋づるの皮むきや豆の筋取り等、利用者をお願いして一緒に行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	日々の食事量や水分量は、しっかりとチェックし、記録している。また摂取が困難な方には、補助食品等の提供を行っている。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアを行っている。また週に一度訪問歯科に来ていただき、口腔ケアを実施している。		
45	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人一人に合わせたトイレ誘導を全職員が把握し、行っている。	利用者が重度化してもトイレで排泄を基本とし、職員は、利用者の生活習慣や排泄パターンを把握して、早めの声掛けや誘導を行い、職員2人介助でトイレでの排泄の支援に取り組んでいる。また、夜間も利用者の希望を聴きながら、トイレ誘導を行い、利用者の自信回復とオムツ使用の軽減に取り組んでいる。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日体操を行い、便秘予防に努めている。また看護師や主治医との連携により、便秘時の対応を行っている。		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	一人一人に合わせた入浴が行えるよう、環境づくりに努めている。	入浴は、利用者の希望や体調に配慮して週2回を基本として支援している。湯船にゆっくり浸かってもらい、入浴の時間は利用者と職員がゆっくり話が出来る大切な時間と捉え、本音の話を聴き取っている。入浴を拒否する利用者には、時間をずらしたり、職員が交代で声掛けし無理強いのない入浴支援を行っている。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人一人の体調や意思に応じ、自由に休息して頂けるよう支援している。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明等は、個々のケア記録に記録し、その日の服薬チェックも記録に記入している。また薬の内容は、会議や申し送りノートで情報共有し、全職員が把握できるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	それぞれの好みや得意なことを把握し、家事等を一緒に行っている。		
51	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	現在はコロナウイルスの影響で行えていないが、花見や花火等、季節に応じた外出を定期的に行っていた。コロナウイルスが落ち着き次第、再開する予定。	新型コロナウイルス対策の為、外出は控えているが、園内で盆踊りを行ったり紅葉見学に行く等、感染対策をしながら気分転換を図っている。敷地内の畑の手入れや収穫、園庭の散歩、外にテーブルを出して食べる食事等、少しでも外気に触れて楽しめるよう支援している。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人・家族の希望に応じて対応している。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人からの希望があった場合には、家族に相談の元、対応している。		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間は、清潔保持に努めており、また展示物を用いて季節感を味わって頂いている。	広い敷地には畑や足湯があり、利用者が野菜を育て収穫したり足湯でリラックスできている。毎月、季節感のある壁画作りに取り組み、季節の飾りつけにより、温かな雰囲気のある共用空間となっている。掃除、換気を小まめに行い、清潔な環境である。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入居間同士の関係性を把握し、共有空間の座席の配慮等を行っている。		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人や家族の、思いや希望を尊重し、家族の写真を飾る等、居心地よく過ごせるよう支援している。	利用者が長年大切に使用していた馴染みの家具や寝具、仏壇や家族の写真、身の回りの物を持ち込んでもらい、自宅に似た環境の中で、利用者が安心して生活ができるよう配慮している。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自分で出来る事はして頂き、できないことは一緒に行ったり、声掛けを行うよう努めている。		